

C ' S M A I L

VOL.67

 **コスモ石油株式会社**

株主通信《シーズ・メール》WINTER 2010

第105期 第2四半期 事業のご報告

平成22年4月1日～平成22年9月30日



トップ・メッセージ



代表取締役会長（左）
岡部 敬一郎

代表取締役社長
社長執行役員（右）
木村 彌一

第105期(2011年3月期) 第2四半期連結累計期間 財務・業績のご報告

株主の皆様におかれましては平素よりご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当社の第105期第2四半期連結累計期間（2010年4月1日～2010年9月30日）（以下「2010年度上期」）の財務・業績の概要について、ご報告いたします。

Cover Story

カバーストーリー

●伊勢神宮

表紙のイラストは、当社グループがビジネスを展開している地域の名所をもとにシリーズで紹介しています。今回は、当社四日市製油所が所在する三重県の伊勢神宮と宇治橋、おかげ横丁のおかげ座をモチーフに構成しました。

表紙イラスト 古田 忠男

経営を取り巻く環境

当上期における国内経済は、新興市場の経済回復などを背景に、景気は持ち直しに向かいつつありますが、デフレ環境の継続や失業率の高止まりなど厳しい状況が続きました。

当社の事業環境については、新興国の需要増

■連結業績サマリー

（単位：億円）

	2010年度上期	前年同期比
連結売上高	12,975	1,556
連結営業利益	297	141
連結経常利益	267	64
在庫評価の影響	-129	-543
在庫評価の影響を除いた連結経常利益	396	607
連結四半期純利益	13	-39

を背景に原油価格は高止まりの状況が続ぎ、受入原油コストは、2010年4月～9月平均1バレル75.68ドルとなり、前年同期比14.88ドル上昇しました。為替は1ドル90.10円となり、前年同期比6.23円の円高で推移しました。当社の国内燃料油販売数量は、自動車の燃費向上や産業界の燃料転換等により前年同期比97.3%となりました。

連結業績・財務状況について

当社グループの業績について、事業セグメント別に解説します。石油事業は、国内製品市況の回復傾向が継続したことに加え、猛暑による需要の高まりもあり、業績は堅調に推移しました。石油化学事業は、需給環境の悪化により厳しい状況となりました。石油開発事業は、前年同期に比べ原油価格が上昇したことで堅調に推移しました。

これらの結果、当上期の連結経営成績については、売上高1兆2,975億円（前年同期比1,556億円増収）、営業利益297億円（同141億円増益）、

経常利益267億円（同64億円増益）、また、特別損益及び法人税等を差し引いた四半期純利益は13億円（同39億円減益）となりました。

当上期末における連結の財政状態につきましては、総資産は1兆4,857億円となり、前期末比1,593億円減少、これは、有利子負債の返済により現金及び預金が減少したこと等によるものです。純資産は3,225億円と前期末比91億円の減少となり、自己資本比率は20.5%となりました。

通期の見通し

2010年度通期の連結業績予想は、5月10日に公表した業績予想と比較し、石油事業における製品市況の改善や販売数量の増加により営業利益、経常利益の増益が見込まれるため、売上高2兆6,000億円（前回公表比500億円増）、営業利益740億円（同110億円増）、経常利益660億円（同80億円増）、当期純利益180億円（前回公表と同じ）となる見通しです。なお、期末の配当は8円とさせていただきます。

株主の皆様には、一層のご理解・ご鞭撻を賜りますよう、よろしく願いいたします。

■2010年度通期の連結業績予想

《2010年11月4日発表》

●通期（2010年4月1日～2011年3月31日）（単位：億円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連結	26,000	740	660	180

●受入原油価格、為替の前提

2010年度下期（2010年10月～2011年3月）前提

原油価格（ドバイ）＝80.00ドル/バレル 為替＝82.00円/ドル

業績予想の適切な利用に関する説明

業績予想につきましては、2010年11月4日の発表日において入手可能な情報に基づき当社で判断したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想と異なる場合があります。

第4次連結中期経営計画の進捗状況

市場の変化をチャンスに変えるべく、 グローバル市場に進出し、収益力を向上します

当社は第4次連結中期経営計画を5月に発表し、国内外での事業基盤の確立と、財務基盤の再強化に取り組んでいます。今回は2010年度上期の進捗状況と、今後の方針についてご報告いたします。



代表取締役社長
社長執行役員
木村 彌一

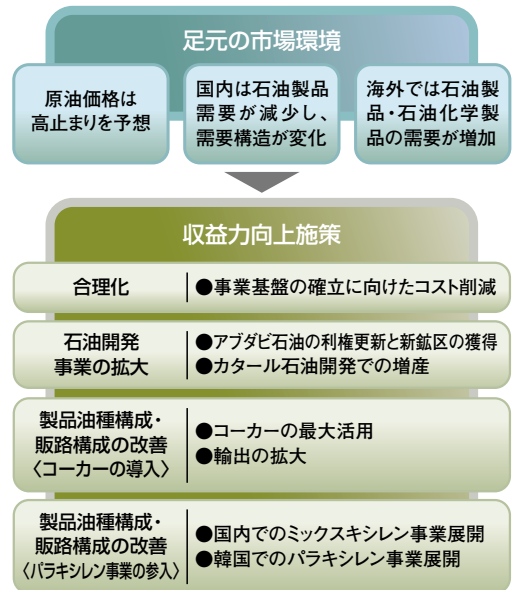
基本方針と収益力向上の取り組み

上期は計画通りの業績を達成

下期以降も収益改善策を推進します。

2010年度上期の在庫評価の影響を除いた連結経常利益は、396億円と前年同期比607億円の改善となりました。これは、減産体制の維持によって国内石油製品の需給バランスが改善されたことに加え、2010年4月から市場連動価格フォーミュラの改定を行ったこと、さらに計画通りに合理化を推進したことなどによるものです。

下期以降の事業環境は、原油価格の高止まりが続くことに加え、国内の石油製品需要の減少が進むことが予想されます。当社グループは、これを成長のチャンスとすべく、国内石油事業の効率化と、グローバル市場に向けた事業を強化していきます。具体的な施策としては、「合理化」「石油開発事業の拡大」「製品油種構成・販路構成改善」に取り組んでいきます。これにより収益力を向上させ、財務基盤の再強化を図るとともに、すべて



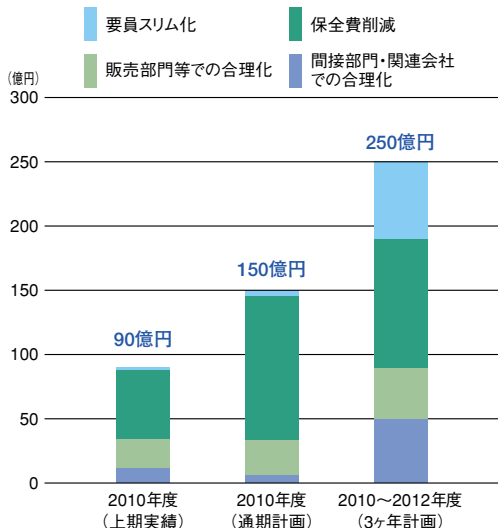
のステークホルダーの皆様にご満足いただけるCSR（企業の社会的責任）経営を推進することで、企業価値の最大化をめざしていきます。

合理化

事業基盤の確立に向けた 合理化を図っていきます。

安定した事業基盤の確立に向けて、要員のスリム化や、高い安全管理レベルを維持しつつ保全費の低減を図ること等で、コスト削減を実行していきます。2012年度までの3ヶ年で250億円の合理化を計画しており、2010年度は150億円の通期目標に対して、上期で90億円、約60%の達成率となりました。具体的には、要員については、定年退職により大幅な減少が見込まれますが、再雇用制度の活用や新規採用の抑制により、グループ全体で2012年度までに要員のスリム化をめざします。また、販売部門や物流部門、間接部門でも合理化やコスト削減を推進していきます。

■ 2009年度比の合理化額



石油開発事業の拡大

アブダビやカタールでの 石油開発事業を拡大します。

当社グループは、中東地域において40年以上に亘る石油開発を通じて、産油国との信頼関係づくりに努めてきました。2007年には、アブダビ首長国政府が出資する投資会社IPICが当社の第3者割当増資を引き受けることで筆頭株主となり、アラブ首長国連邦 (UAE) 及びアブダビ首長国の政府要人が当社社外取締役役に就任しています。石油開発事業の強みとしましては、リスクの小さ



■ 石油開発事業における優位性

■ アブダビとの強固な信頼関係

- 40年以上の石油開発を通じた信頼関係の構築
- IPICとの戦略提携

■ 石油開発リスクの小さいエリアでの操業

- 探鉱・開発・生産リスク<極小>
- 地政学的リスク<極小>

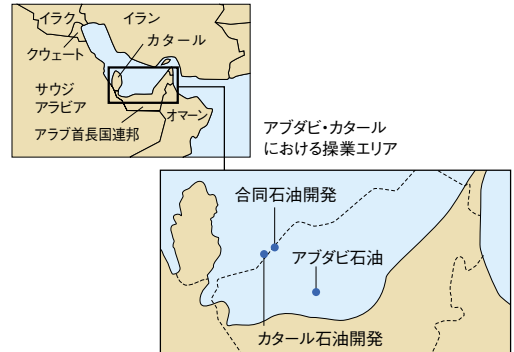
第4次連結中期経営計画の進捗状況

いエリアで操業している点にあります。当社が石油開発を行っているUAEやカタールは、政治的にも安定しており、また浅海の油田が中心となるため、深海における油田開発に比べて、リスクや生産コストが低いというメリットがあります。

2012年に契約満了を迎えるアブダビ石油の権益については、30年の延長及び新規鉱区の取得に向けて交渉中です。また、隣国カタールでは、既存鉱区における安定生産とともに、新たにA構造南部油田において2010年度中の生産開始を目標に、開発作業を継続しています。

■産油国との信頼関係を基盤とした石油開発事業の推進による収益拡大

- アブダビ石油の権益更新及び新鉱区獲得に向け交渉継続中
- カタール石油開発「A構造南部油田」商業生産開始(2010年度中)



製品油種構成・販路構成改善（コーカー導入）

コーカーの本格稼働によって石油製品の輸出を拡大します。

国内の石油製品需要は減少傾向が続き、特に環境に配慮した産業界のLNGへの燃料転換などによって重油需要が著しく減少しています。当社はこの環境変化に対応するため、堺製油所に建設したコーカーによって重油留分を分解し、付加価値の高い中間留分（ナフサ・灯油・ジェット燃料・軽油）を生産するとともに、これらを海外に輸出することで、国内石油精製事業の規模を維持しながら、グローバルな需要に対応した生産・販売体制を構築していきます。

当社は、既に海外への安定販路を確保しており、海外販売における長期契約比率は90%に達して



コーカー（重質油分解装置）群

■コーカー（堺製油所）の最大活用による収益拡大

■油種（生産）構成の改善

重油留分（A重油、C重油等）

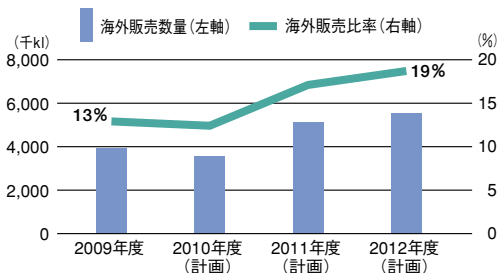
▼
中間留分（ナフサ・灯油・ジェット燃料・軽油）への生産シフト

■海外販売の拡大

- アジア・環太平洋での「既存安定販路拡大」と「新規顧客獲得による販路拡大」

います。また市場についても、北米、チリ、豪州の既存販路に加え、新たにインドネシア、中国などへの拡大を図っていきます。コーカーの本格稼働に合わせて、2012年度には、石油製品の海外販売比率を19%まで拡大させる予定です。

■ 海外販売数量と海外販売比率



製品油種構成・販路構成改善 (パラキシレン事業)

化学繊維原料となる

石油化学製品の輸出を拡大します。

アジア地域では、ペットボトルや化学繊維の原料となるパラキシレン (PX) の需要が高まっています。当社は、ガソリン留分からPXの原料となるミックスキシレン (MX) へと生産シフトを図ることで、国内のガソリン需要の減少に対応していきます。2011年には、四日市製油所に年間30万トンを生産するMX蒸留装置を新設し、グループ全体で年間60万トンのMX生産体制を構築する予定です。このMXは、2013年以降、韓国のヒュンダイオイルバンクと設立した合弁会社*に供給され、PXに加工されます。同社は2013年までに年間80万トンのPX製造装置を建設し、年間38万トンの既存設備と合わせ年間118万トンの生産能力を持つ、1製油所としては世界最大規模のPXメーカーとなります。当社グループは、グローバルなネットワークの構築により、高収益で安定した事業ポートフォリオの確立に取り組んでいきます。



パラキシレン製造装置

■ パラキシレン事業への参入

ヒュンダイオイルバンク (HDO) との
パラキシレン合弁事業
38万トン⇒118万トン (年間)

ミックスキシレン
蒸留装置の増設
30万トン⇒60万トン (年間)

パラキシレン事業

規模のメリットによる
圧倒的なコスト競争力

国内ガソリン需要減への対応

原油からパラキシレンの一貫体制による事業ポートフォリオ拡充

* HC Petrochem Co., LTD.

「安全・安定操業を基盤に、 人財育成と機動力の強化を図り 環境変化に強い製油所をめざします」



当社は千葉、四日市、堺、坂出の4製油所で、石油製品の生産を行っています。今回は、中部地区を中心に石油製品を供給している四日市製油所（三重県）の大滝所長より製油所の機能や環境対策、地域交流などについてご紹介します。

執行役員 四日市製油所長
大滝 勝久

Q：四日市製油所の特長は

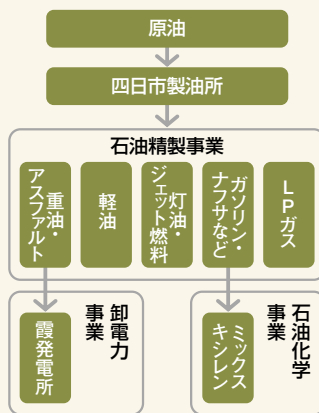
——どんな環境変化にも対応できる強い製油所をつくるため、需要構造の変化に応じた投資を着実に実行しています。

四日市製油所は、中部地区などに石油製品を安定供給しています。また2003年には、需要が減少する重油やアスファルトの有効利用を図るため、主にアスファルトを発電の原料とした霞発電所を建設し、中部電力への卸電力事業を行っています。さらに、海外市場向けのガソリン出荷設備の整備も進めており、既に輸出を行って

いるジェット燃料、軽油の他、2011年3月にはガソリンも加わる予定です。この他、アジア地域の石油化学需要の増加に対応するため、ガソリン留分からミックスキシレンを取り出すための蒸留装置を建設中です。2011年11月には年間30万トンの本格的な生産体制を整え、2013年には韓国のヒュンダイオイルバンク(株)との合弁会社※に供給を開始します。ミックスキシレンは、化学繊維やペットボトルの原料となるパラキシレンに加工され、アジア市場に出荷されます。

※ HC Petrochem Co., LTD.

■四日市製油所における製品フロー図



需要の減少する重油やアスファルトを原料に発電する霞発電所

Q：安全操業の取り組みは

——業務改善により現場主義を徹底し、不具合の早期発見と意識向上につなげています。

オペレーターは、24時間体制で装置の稼働状況を監視し、異常があれば直ちに現場に急行できる体制をとっています。オペレーターが常に余裕を持って装置を運転することができるよう、業務改善に取り組むなど現場主義を徹底しています。また、発見した不具合については、社会的・経済的影響の両面から評価を行い、安全操業に対する意識向上につなげています。

Q：環境保全の取り組みは

——環境対応力の強い製油所をめざし、省エネや大気汚染防止に努めています。

三重県四日市市の環境規制は、国内でも厳しいことで知られています。四日市製油所では、2基のコジェネレーションで自家発電を行い、使用電力の93%

をカバーするなど、従来から省エネに取り組んできました。また、霞発電所の建設時には、当所全体として、発電所の稼働以前よりも窒素酸化物や硫酸酸化物などの排ガス量が増大しないよう、脱硝装置の導入をはじめ様々な施策を実施しました。霞発電所では敷地面積の25%以上を緑地とし、野生生物の生息エリアも設けています。

Q：地域との交流や社会貢献活動は

——操業当時から、地域との交流を大切にしています。

四日市製油所は、住宅地に隣接していることもあり、1943年の操業開始時から地域との交流を盛んに行ってきました。スポーツ支援活動として、「地区対抗ママさんソフトバレー大会」や「ジュニアサッカースクール」を開催し、会場提供や運営支援を行っています。また、地元の自主防災組織連絡協議会と一体となり、地域の合同防災訓練も実施しています。



設備の安全稼働を監視する運転管理室



コジェネレーションシステムで省エネを推進



地区対抗ママさんソフトバレー大会を開催



ジュニアサッカースクールを開催

■四日市製油所

三重県四日市市大協町1丁目1番地

- 操業開始年月 1943年7月
- 面積 1,175,478㎡
(東京ドーム約25個分)
- 原油処理能力 125,000バレル/日
(1バレル=159リットル)

社会貢献活動のご紹介

自然体験プログラム「第18回コスモわくわく探検隊」開催

当社は、CSR経営の一端を担う活動として、「オリジナリティ」「社員参加」「継続性」を基本方針に、様々な社会貢献プログラムを実施してきました。「コスモわくわく探検隊」は、クルマ社会と関係の深い当社が、交通遺児の小学生を対象に、1993年から実施している環境教育プログラムです。運営に当たっては、自然体験プログラムのプロフェッショナルの指導のもと、当社グループの社員が、現地で事前研修を行うなど、子どもたちの安全と健康管理に努めました。

火おこしの方法や食べられる野草などを教わりました



第18回となる今年は、8月5日から7日までの3日間、山梨県都留市の「宝の山ふれあいの里」を舞台に、28名の小学生、当社グループの社員14名が参加し、「森の住人になろう！ぼくらの家は森の中！」をテーマにプログラムを展開しました。1日目、子どもたちは班ごとに分かれ、「冒険」に必要な道具の準備をしたり、火おこしの方法を学び、2日目の朝にそれぞれのキャンプ地に出発



少しひんやりした、透き通る美しい川で水遊び



お魚いるかな



しました。川遊びなどで自然を楽しみ、伝統漁法を使った魚とりや、山菜や野イチゴの採集で自然の恵みに気づきました。また、寝場所の設営、夕食づくり、薪割り、ドラム缶風呂の準備なども、子どもたちが積極的に行い、自ら行動していく契機となりました。

当社は、今後も様々な活動を通じて、より良い社会づくりに貢献していきます。



子どもたちと魚とりに挑戦する松村常務



自分たちでとった自然の恵みにも感謝をして、「いただきます」



スタッフが撮った写真を見ながら、子どもたちが感想を発表！



コスモわくわく探検隊 隊長
コーポレートコミュニケーション部
広報室長 安田善彦

18年間継続しています“コスモわくわく探検隊”を梅雨明けの素晴らしい天気のもと開催することができました。大自然の中で川遊びやキャンプをする貴重な体験の中から忘れ得ぬ楽しい思い出が作れました。最終日には卒業生となる小学6年生3人へ修了証も手渡すことができ、子どもたちも大変喜んでくれました。社員ボランティアのメンバーと社外スタッフの温かい協力に感謝しつつ、今後とも本活動を継続してまいります。



参加した社員ボランティアの声

今回、社員ボランティアとして、初めて“コスモわくわく探検隊”に参加しました。最初は大人しかった子どもたちも冒険地に近づくとつれて活発になっていき、森の中では川遊びや、山菜採り、沢ガニ探しと元気いっぱい。子どもの遊ぶ力に驚くとともに、一緒になって冒険を楽しめました。子どもたちにも自分にも思い出に残る冒険になったと思います。



参加した社員ボランティアの声

“コスモわくわく探検隊”に参加して実感したことは、子どもたちから教えてもらうことが多いということです。我々社員ボランティアの役割は、自然の素晴らしいさや自然を大切にしたい気持ちを子どもたちに伝えることだと思っていましたが、活動を通じて自然との関わり方や楽しみ方を子どもたちからたくさん教えてもらいました。今後も社会貢献活動を通じて、自分自身も成長していきたいです。

要約四半期連結財務諸表

要約四半期連結損益計算書

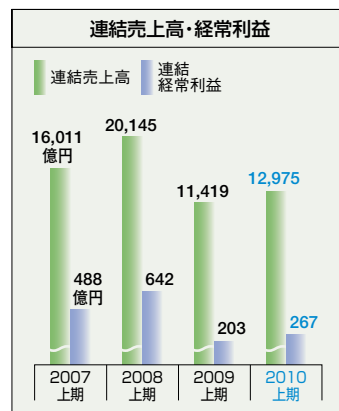
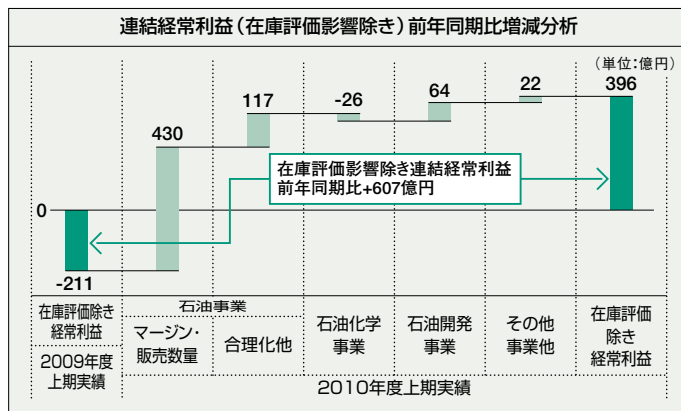
(単位:億円)

科目	当上期 (2010.4.1～2010.9.30)	前上期 (2009.4.1～2009.9.30)
売上高	12,975	11,419
売上原価	12,044	10,602
販売費及び一般管理費	634	661
営業利益	297	156
営業外収益	45	111
営業外費用	74	64
経常利益	267	203
特別利益	4	3
特別損失	122	51
税金等調整前四半期純利益	150	155
法人税等	117	91
少数株主利益	19	12
四半期純利益	13	52

※億円未満を四捨五入しています。

販売価格の上昇等により増収
マージンの改善等により増益

当上期の連結売上高は、1兆2,975億円となり前年同期比1,556億円の増収、連結経常利益は267億円で前年同期比64億円の増益となりました。一方、在庫評価の影響マイナス129億円を除いた連結経常利益は396億円となり、前年同期比607億円の増益となりました。この主な内訳は、下記の左表の通り、マージンの改善等で430億円のプラス、合理化等で117億円のプラスとなる等石油事業で547億円のプラス、石油化学事業はマージン悪化により26億円のマイナス、石油開発事業は64億円のプラス、その他事業で22億円のプラスがあったこと等によるものです。また、特別損益及び法人税等を差し引いた四半期純利益は13億円となり前年同期比39億円の減益となりました。



要約四半期連結貸借対照表

(単位:億円)

科目	当上期末 (2010.9.30)	前期末 (2010.3.31)
資産の部		
流動資産	6,901	8,453
固定資産	7,953	7,996
有形固定資産	6,042	5,977
無形固定資産	120	126
投資その他の資産	1,791	1,893
繰延資産	2	1
資産合計	14,857	16,450
負債の部		
流動負債	5,872	7,442
固定負債	5,760	5,693
負債合計	11,632	13,135
純資産の部		
株主資本	2,899	2,962
評価・換算差額等	144	195
少数株主持分	182	158
純資産合計	3,225	3,316
負債純資産合計	14,857	16,450

※億円未満を四捨五入しています。

要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

科目	当上期 (2010.4.1~2010.9.30)	前上期 (2009.4.1~2009.9.30)
営業活動によるキャッシュ・フロー	494	-403
投資活動によるキャッシュ・フロー	-385	-542
財務活動によるキャッシュ・フロー	-1,185	130
現金及び現金同等物に係る換算差額	-9	12
現金及び現金同等物の増減額	-1,085	-804
現金及び現金同等物の期首残高	2,289	1,599
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,204	795

※億円未満を四捨五入しています。

●資産の部

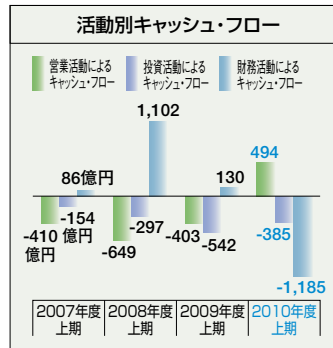
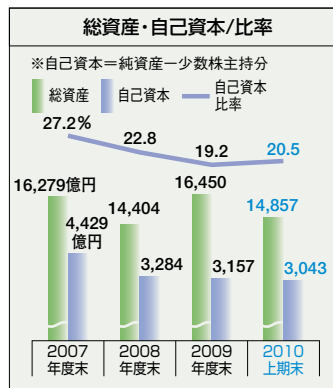
総資産は、有利子負債の返済により現金及び預金が減少したこと等により、前期末比1,593億円減少しました。

●負債の部

負債は、有利子負債が減少したこと等により、前期末比1,503億円減少しました。

●純資産の部

純資産は、前期末比91億円減少、自己資本比率は20.5%となりました。



ニュース・ヘッドライン

当社が発表した最近のニュースについて、主な項目と内容の一部をお知らせします。

詳細は当社のホームページからご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.cosmo-oil.co.jp/>

2010年

10月29日	奄美地方での豪雨による被災者への義援金について	
10月29日	生分解性プラスチック特許に関するライセンス契約締結について	
9月30日	モーニングスター社会的責任投資株価指数 (MS-SRI) 継続採用について	2
9月29日	カスタマーセンター業務の24時間対応について	3
9月28日	コスモ・ザ・カード・ハウス、オーパス共通「もれなくキャッシュバック」キャンペーンの実施について	
9月27日	コスモ・ザ・カード・オーパス、ハウス共通「灯油deもれなくプレゼント」キャンペーンの実施について	
9月27日	「コスモ石油グループ コーポレートレポート2010」発行	1
9月13日	首都圏直下型地震 BCP総合訓練を実施	6
9月13日	「Jazz Night @魚籃寺 2010」チャリティ・ジャズコンサート実施 (協賛) のご報告	5
8月23日	コスモ子ども地球塾 子どものための自然アートワークショップ 「自然のなかのアートを探そう！」実施のご報告	
8月9日	「第18回コスモわくわく探検隊」実施のご報告	
7月26日	コスモアースコンシャスアクト クリーン・キャンペーン in Mt.FUJI 実施のご報告	4
7月22日	グリーン電力証書を活用した「グリーン充電サービス」の提供について	
7月12日	「コスモ石油エコカード基金活動報告書2010」発行について	
7月8日	デジタルでも“ココロも満タンに” 業界初！コスモ石油スマートフォンサイト開設のお知らせ	
7月1日	社会貢献活動「コスモ石油 中学生のためのバレー」実施のご報告	

※ニュースの内容により色分けしています。 トピックス／CSR・社会貢献／IR／環境

※上記の日付はプレスリリース日です。

1

CSR活動のビジョンや計画、取り組みの進捗を掲載した「コスモ石油グループ コーポレートレポート2010」を発行

「コスモ石油グループ コーポレートレポート 2010」を発行しました。従来は、当社グループのCSR活動に関するビジョンや計画、取り組みの進捗を掲載した年次レポートとして「サステナビリティレポート」を発行してきましたが、本年より経営計画などの経営情報も充実させた「コーポレートレポート」として刷新しました。具体的な内容としては、「石油製品の安定供給と安全操業に向けた製油所の取り組み」や「風力

発電、集光太陽熱発電などの再生可能エネルギー技術」など、本業を通じて持続可能な社会づくりに貢献する当社の取り組みを紹介しています。



コーポレートレポート
2010

※「コスモ石油グループ コーポレートレポート2010」は、当社ホームページからご覧いただけます。

▶ http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_100927_2/index.html

2

社会的責任投資株価指数 (MS-SRI) に8年連続で採用

当社は、「モーニングスター社会的責任投資株価指数 (MS-SRI)」の構成銘柄として8年連続で採用されました。MS-SRIは、モーニングスター(株)が国内上場企業約3,600社の中から社会性に優れた企業と評価する150社を選定し、その株価を指数化した社会的責任投資株価指数です。2003年に国内初の社会的責任投資株価指数として創設されて以来の継続採用となります。

▶ http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_100930/index.html

3

コスモ石油カスタマーセンターを365日24時間対応に

“ココロも満タンに”をいつでもお客様に感じていただきたい。そんな気持ちからコスモ石油カスタマーセンターは、10月1日より24時間年中無休でお電話のお問い合わせに対応させていただいています。お客様の声に24時間体制で「正確・迅速・丁寧」にお答えし、その内容をサービス・業務の改善に反映することで、さらなるお客様満足度の向上に努めてまいります。

***受付電話番号：0120-530372**

▶ http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_100929/index.html

ニュース・ヘッドライン

4

コスモ アースコンシャス アクト クリーン・キャンペーン in Mt. FUJIを実施

当社は、地球環境の大切さを呼びかけていく活動「コスモ アースコンシャス アクト」を、JFN（全国FM放送協議会）加盟局と共に展開しています。活動の一環として、全国の山、川、海、湖、公園を舞台に、自然と親しみながら清掃活動を行う「クリーン・キャンペーン」を実施しており、そのシンボリックなイベントとして7月24日・25日の1泊2日で「コスモ アースコンシャス アクト クリーン・キャンペーン in



Mt. FUJI」を実施しました。当日は8歳から62歳までの幅広い年齢層のリスナーの方々、各局のパーソナリティ、そしてアルピニストの野口健さんが参加し、ゴミの不法投棄などによって汚されてしまった樹海の清掃活動と、貴重な植生のある富士山原生林のエコトレッキングを行いました。



アルピニストの野口健さんが活動に参加されました



ガラスビンやタイヤなど約3トンのゴミを回収

▶ http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_100726_3/index.html

コスモSS新店舗 オープン情報

2010年7月から2010年10月にオープンしたコスモ石油のサービスステーションを紹介します。



■7月オープン

- ◎セルフステーション市橋SS 岐阜県岐阜市
- ◎セルフ茜部SS 岐阜県岐阜市

■8月オープン

- ◎ウィング問屋SS 栃木県足利市

■9月オープン

- ◎富加町SS 岐阜県加茂郡富加町
- ◎セルフ&カーケアステーション八王子堀之内SS 東京都八王子市

■10月オープン

- ◎ラバスSS 神奈川県高座郡寒川町
- ◎セルフステーション寒川倉見SS 神奈川県高座郡寒川町

※店舗の詳細は、当社ホームページをご覧ください。
<http://www.cosmo-oil.co.jp/ss/open/index.html>

5

チャリティ・ジャズコンサート 「Jazz Night @ 魚籃寺 2010」に協賛

9月11日、「Jazz Night @ 魚籃寺2010」を開催しました。これは、先駆的音楽の普及・教育のために活動しているNPO「Glovill（グローヴィル）」が主催し、当社が協賛を行っているチャリティコンサートで、今回で第4回の開催となります。集まったお客様は、オランダの人気ピアニストであるピーター・ビーツの美しい音色に酔いしれました。入場料と来場者からの寄付金を合わせた155,000円は、難病で長期入院を余儀なくされる子どもたちのご家族のための滞在施設を運営するNPO「ファミリーハウス」に贈呈されました。当社社員ボランティアは、会場の準備や片付け、受付、観客の誘導などを担当しました。

▶ http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_100913_2/index.html



会場には心地よいジャズの音が響き渡りました



当社グループ社員でコンサートの運営をサポートしました



入場料と来場者からの寄付金をNPO団体に贈呈

6

首都圏直下型地震を想定したBCP総合訓練を実施

9月10日、当社本社において、首都圏直下型地震の想定被害シナリオに基づくBCP（大規模災害発生時における事業継続計画）総合訓練を実施しました。今回の総合訓練は、2006年11月、2008年4月、2009年9月に続く4回目の実施となり、関連会社の総務部門もオブザーバーとして参加することで、各事業所への浸透を図りました。今後もリスクマネジメントの一環としてBCP総合訓練を実施し、大規模災害時にも石油製品の安定供給を行うために努力していきます。



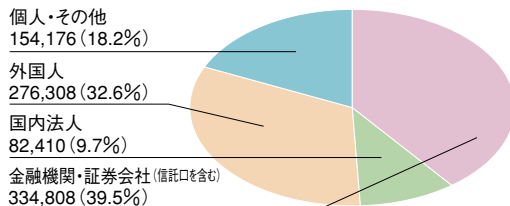
訓練の様子

▶ http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_100913/index.html

株式情報

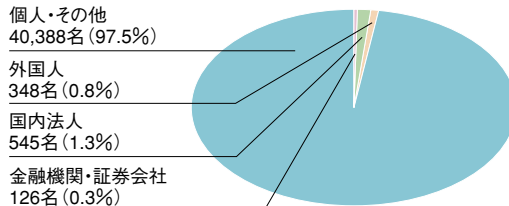
(2010年9月30日現在)

発行済株式の総数 847,705,087株



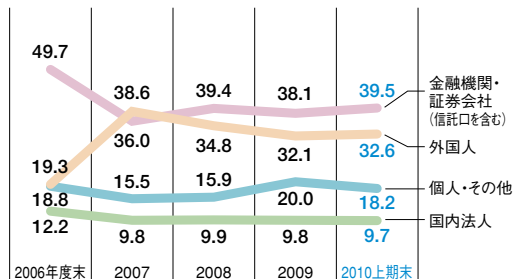
(単位:千株、千株未満切捨)

株主数 41,407名



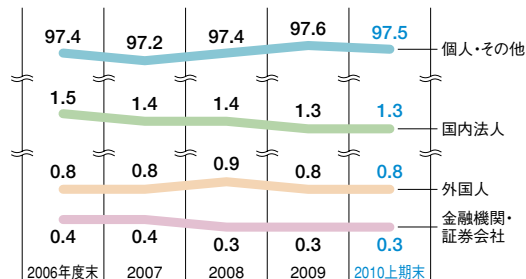
発行済株式数の所有者別推移

(単位:%)



株主数比率の推移

(単位:%)



社債の状況

(単位:億円)

■無担保社債

	発行日	前期末残高	当上期末残高	償還期限
第20回	2010. 1/29	150	150	2017. 1/31
第21回	2010. 9/21	—	220	2015. 9/18

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
インフィニティ アライアンス リミテッド	176,000	20.76
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	59,829	7.05
株式会社みずほコーポレート銀行	31,320	3.69
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	28,616	3.37
株式会社三菱東京UFJ銀行	19,750	2.32
三井住友海上火災保険株式会社	18,878	2.22
関西電力株式会社	18,600	2.19
東京海上日動火災保険株式会社	17,335	2.04
株式会社損害保険ジャパン	15,792	1.86
日本生命保険相互会社	14,632	1.72

(注)持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月
期末配当金 3月31日
支払株主確定日
中間配当金 9月30日
支払株主確定日
1単元の株式の数 1,000株
株主名簿管理人 中央三井信託銀行株式会社
東京都港区芝三丁目33番1号
郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目
8番4号
電話照会先 中央三井信託銀行株式会社証券代行部
電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
取次事務は中央三井信託銀行の全国
各支店ならびに日本証券代行株式会
社の本店及び全国各支店で行って
おります。
公告方法 電子公告の方法により行います。
ただし、電子公告によることができ
ない事故、その他やむをえない事由
が生じた場合は、日本経済新聞に
掲載します。
公告掲載URL
[http://www.cosmo-oil.co.jp/
ir/notice/index.html](http://www.cosmo-oil.co.jp/ir/notice/index.html)
上場取引所 東証一部・大証一部・名証一部

住所変更、単元未満株式の買取・買増等 のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設され
ました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央
三井信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払い配当金の支払いについて

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社
にお申し出ください。

コスモ石油株主通信『シーズ・メール』67号

発行/コスモ石油株式会社 コーポレートコミュニケーション部 IR室 〒105-8528東京都港区芝浦一丁目1番1号
TEL.(03)3798-3180 FAX.(03)3798-3841
ホームページ <http://www.cosmo-oil.co.jp/>

誌名『C's MAIL(シーズ・メール)』には、「C(コスモ)の手紙」の意味を込めました。株主の皆様にも、心の通った情報を提供したいという当社の願いを、この名前に託しています。
